



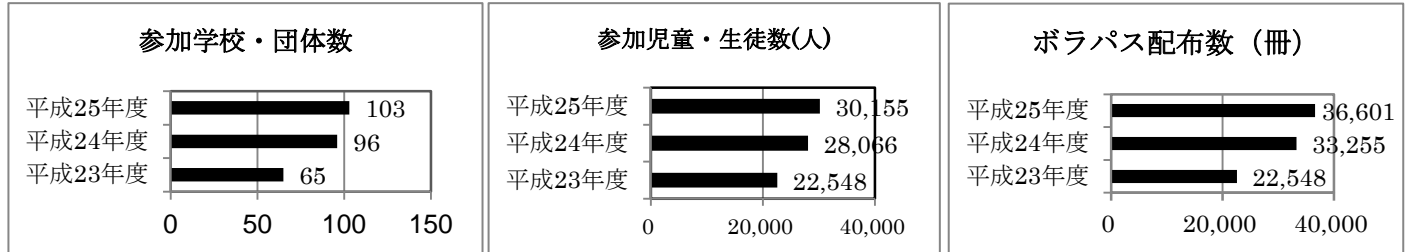
平成25年度事業報告

平成25年度事業のご報告

1. ふれあいボランティアパスポート事業

○ふれあいボランティアパスポート普及

児童・生徒のふれあいボランティア活動を普及するために、そのきっかけと継続につながる「ふれあいボランティアパスポート」（以下ボラパスという）の活用を小中高等学校等に積極的に呼びかけました。その結果、ふれあいボラパス活用を希望する参加学校数、参加児童・生徒数、配布数ともに増加しました。



○ふれあいボランティア感想文募集（ボラパス参加校 103 校が対象）を行いました。

「ふれあいボランティア活動を通じての私の成長」をテーマに、小学校 368 作品、中学校 108 作品、高等学校 10 作品、合計 466 作品の応募をいただきました。平成 25 年度は、選考委員長にご存じの 3 年 B 組 金八先生の脚本家として有名な小山内美江子先生にお願いしました。選考の結果、16 名の児童、生徒の作品が選ばれました。どの作品も子どもたちの気づきと成長が感じられる作品でした。

【選考委員長】 認定 NPO 法人 JHP・学校をつくる会代表、脚本家（3 年 B 組 金八先生他）小山内美江子氏

【選考委員】 早稲田大学文学学術院教授（さわやか青少年センター理事）増山均氏、NPO 法人放課後 NPO アフタースクール代表理事 平岩国泰氏、日本教育新聞社編集局局長 矢吹正徳氏

【ふれあいボランティア活動大賞 1 名】【小学生賞（7 名）】【中学生賞（5 名）】【高校生賞（3 名）】

受賞者には、表彰状と楯、記念品（缶バッジ）、その他の応募いただいた児童・生徒の皆さん全員に記念品（缶バッジ）を差し上げました。受賞者 16 名のふれあいボランティア活動感想文は感想文集にまとめるとともに、当センターホームページに掲載していますので、是非、お読みください。

○子どものボランティア活動活性化のための研究会

◆ふれあいボランティアパスポート新成人アンケート調査（2014 年 1 月 12 日）

ボランティア活動普及のためのボランティアパスポート事業は、平成 12 年度（さわやか福祉財団）から当センターが受託し、平成 26 年度（当年度）まで含めて 15 年間継続している事業です。平成 15 年度から現在まで参加いただいている佐賀県神埼市教育委員会にご協力いただき、平成 26 年 1 月 12 日（日）の成人式の日、会場にて旧千代田町（当時参加していた町）の新成人に対して、第 2 回目のボランティア活動についてのアンケート調査を実施しました。その結果、55 名（全新成人 129 人の 43%）の新成人から回答をもらうことができました。その内容について抜粋してご紹介します。

【調査結果抜粋】※今年の調査結果と昨年との比較は、佐賀県神埼市（旧千代田町）のみにあてはまるものです。

また、今年度の調査結果はあくまでも 55 名に対する調査結果です。

■55 名の新成人のうち 5 割以上（52.7%）の人が何らかのボランティア活動に取り組んでいる。

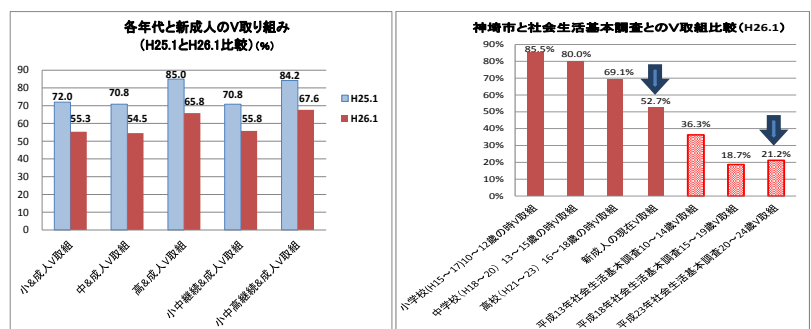
（昨年は 62.5%：佐賀県神埼市）総務省統計局の社会生活基本調査（5 年に 1 回）と神埼市を比較すると、新成人と同年代の 20～24 歳の比較（下矢印部分）では、神埼市が約 2.5 倍（昨年約 3 倍）とかなり高い。

■ボランティアパスポートは、役に立つツールであると思われる。

小学校時代 76.4%（昨年 84.4%）、中学校時代 78.2%（昨年 75.0%）が役に立ったと回答した。

■小中高等学校と段階的、継続的にボランティア活動をした児童、生徒ほど、新成人になってもボランティア活動をする割合が約 7 割と高い。

調査結果はまとめて、都道府県政令市の教育委員会に届けました。なお、調査結果の詳細は、当センターホームページをご覧ください。



2. スクールボランティアサミット事業

○スクールボランティアサミット 2013 開催

(2013 年 8 月 2 日)

スクールボランティアサミットは、学校での奉仕体験活動・ボランティア体験学習の充実、レベルアップを図ることを目的とした活動です。

当センターと東京都奉仕研究会（東京都教職員研修センターから認定された研究会）による共催で、まず

(参加者状況)			
幼稚園	1 園	園長	1 名
小学校	1 校	教諭	1 名
中学校	2 校	教諭	2 名
高等学校	16 校	教諭	26 名
大学	2 校	教授	2 名
社会福祉法人	3 団体		3 名
NPO 法人	6 団体		13 名
学校協力地域団体 2 団体			2 名
企業他			5 名
中学生 1 校			2 名
高校生 1 校			9 名
大学生 2 校			5 名
大学院生 3 校			3 名
			計 75 名



日本福祉大学原田正樹教授の講義（サビ・ラーニング）



（事例報告 3 校）学校の取組報告



（ワークショップ）参加者全員でサービスラーニングの進め方を協議しました。



日本福祉大学の原田正樹教授による「地域の課題に取り組む」（サービスラーニングを理解する）という講義に始まり、3つ高等学校からの事例報告、そして、自分たちがサービスラーニングを行うためにはどうしたらよいかというワークショップを行い、活発な意見交換が行われました。参加者からは大変良かったという意見が多く寄せられました。当センターホームページをご覧ください。

3. 青少年地域ボランティアサークル普及事業

この事業は、青少年の地域ボランティアサークルづくりを支援して、青少年が地域社会の一員として社会参加する機会を提供することを目的としています。

○青少年地域ボランティアサークルづくり支援。

東北3県（岩手県、宮城県、福島県）の高校生を募集し、岩手県から2名（高2）、宮城県から2名（高1）、福島県から1名（高1）の5名を山形県天童市（県立青年の家）で毎年開催されるYYV（山形県ヤングボランティア）フェスティバル（2013年10月19、20日開催）に招待しました。山形県内の地域ボランティアサークルの高校生たちや地域の方々と交流して、青少年地域ボランティアサークルづくりを学んでももらいました。



左から宮城県2名、福島県1名、岩手県2名



全員集合！充実した活動に5人も山形県の仲間との別れを惜しんでいました。

○青少年地域ボランティアサークル指導者ハンドブックの作成

今年度は、指導者のためのハンドブック作成のために、当センター理事で日本女子大学の田中雅文教授と有馬の2名で、4つのサークル（山形県くじら、ふなっ子）、（静岡県チーズケーキ）、（高知県スマイルリング）を訪問し、指導者のヒアリングを行い、スマイルリングでは参加している高校生のヒアリングも行い、ハンドブック（A5版）を作成しました。このハンドブックを使用して、26年度は指導者育成研修会を開催予定です。



ヒアリングを行った高知市のスマイルリングのメンバーと写真を撮る。

4. 幼児期の人間力を育てるための研究事業

幼児期の共助力の萌芽について3年間の調査研究事業として設立した研究会で、昨年度の1月から平成25年度の3月まで月2回平均5時間延べ120時間ほど新宿区の子育て広場「ゆったり〜の」で幼児及び保護者、施設のスタッフの観察を行い、卒業した保護者にアンケート調査を実施して、中間報告にまとめました。この事業につきましては、26年度の最終報告をまとめた段階でホームページ等にご紹介させていただきます。



「ゆったり〜の」の広場の幼児を観察

5. 広報事業

さわやか青少年センターのホームページでは、当センターの活動を随時ご紹介しています。是非ご覧下さい。また、社会教育専門誌「月刊社会教育」に青少年地域ボランティアサークル事業について4ページに渡り、掲載されました。